

高崎健康福祉大学
4年次 臨床医薬品情報学

フォーミュラーの在り方と
FINDATの役割

2022年12月23日(金)
日本調剤株式会社 FINDAT事業部
上田 彩

Aim

- **英国における薬剤師の役割について知る**
- **医薬品情報源を知る**
- **フォーミュラリーなど医薬品の採用と使用のために必要な情報の評価について知る**

Objective

- 1 - 英国における薬剤師の役割
- 2 - フォーミュラリーとは？
- 3 - FINDATの紹介
- 4 - FINDATの使い方

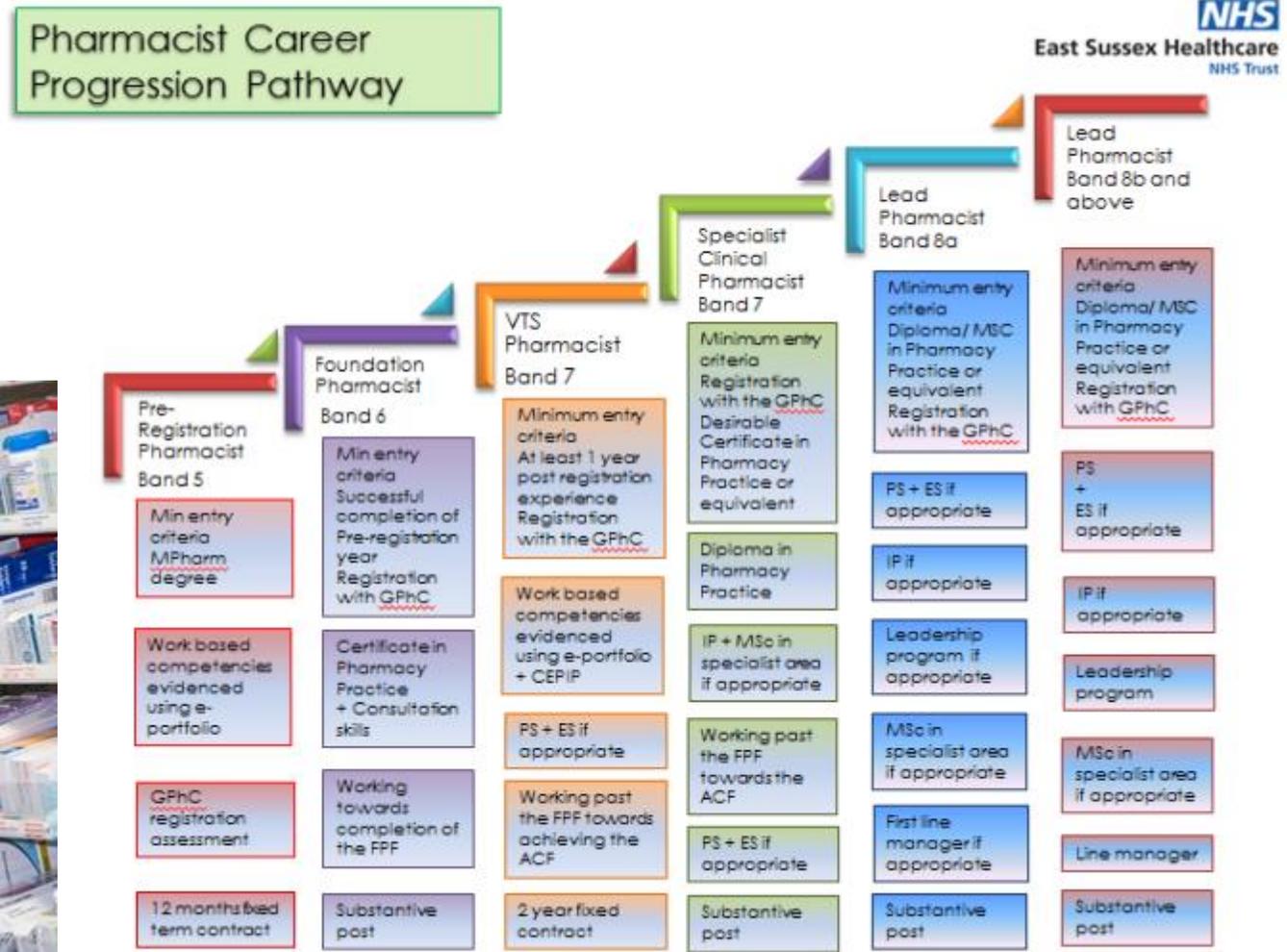
「患者のQOLを改善するという明確な成果を引き出す目的のために、 責任ある薬物治療を提供する」

1. 疾病の治療
2. 患者に症状の除去又は軽減
3. 疾病の進行を止めたり、遅らせたりすること
4. 疾病又は症状の予防

国家資格を得ることは、
国民と患者のために
中立的な立場で働く責務がある。

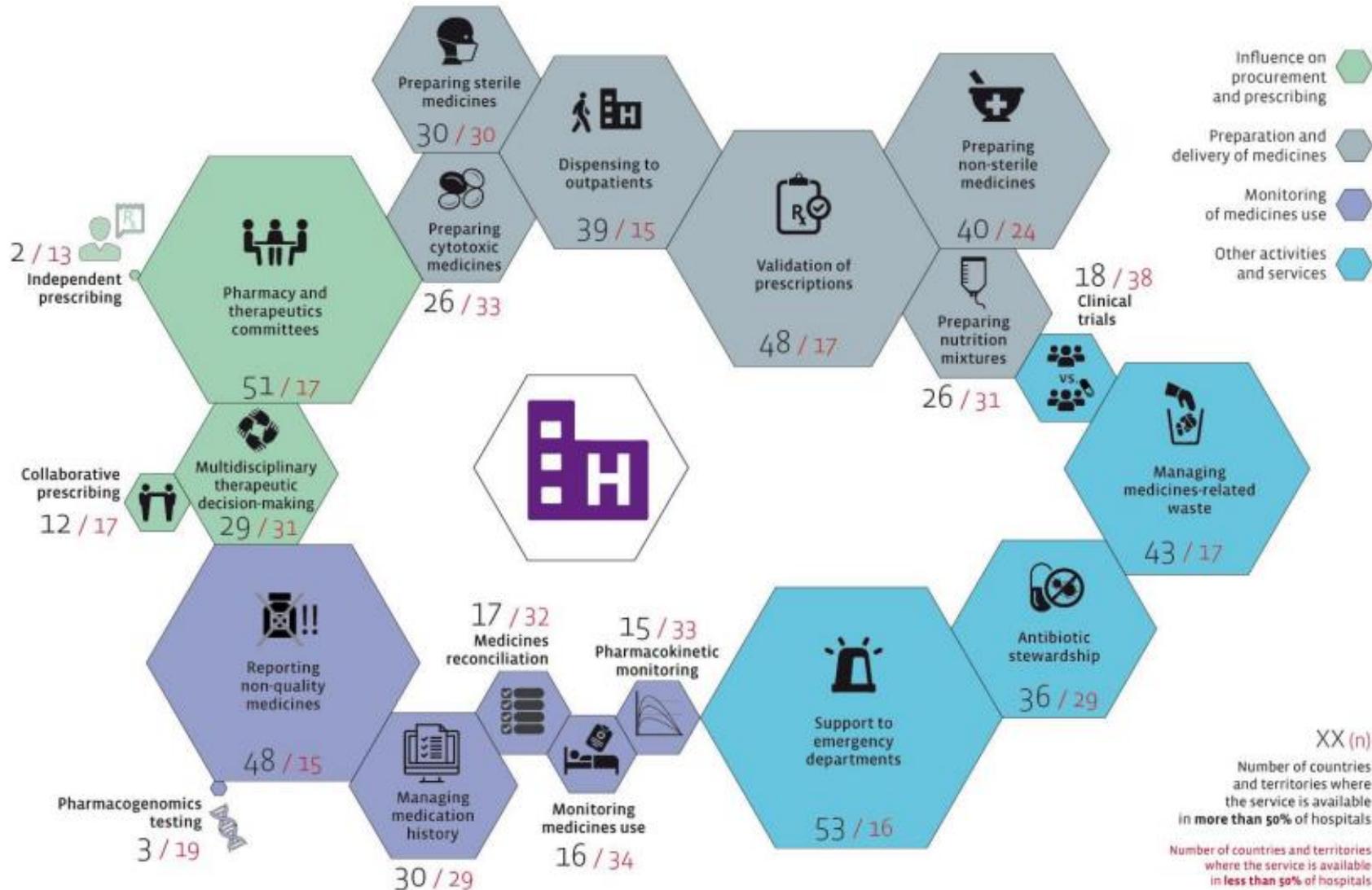
C. Hepler, Am.J.Hosp.
Pharm.,1990,47, 539
WHO(1993)

- 実務実習Pre-registration pharmacistからスタート
- 実務経験・卒後研修でステップアップ



<https://www.esht.nhs.uk/wp-content/uploads/2017/05/Pharmacy-Education-and-Training-Strategy.pdf>

8. What services are hospital pharmacies providing?
(n=72)



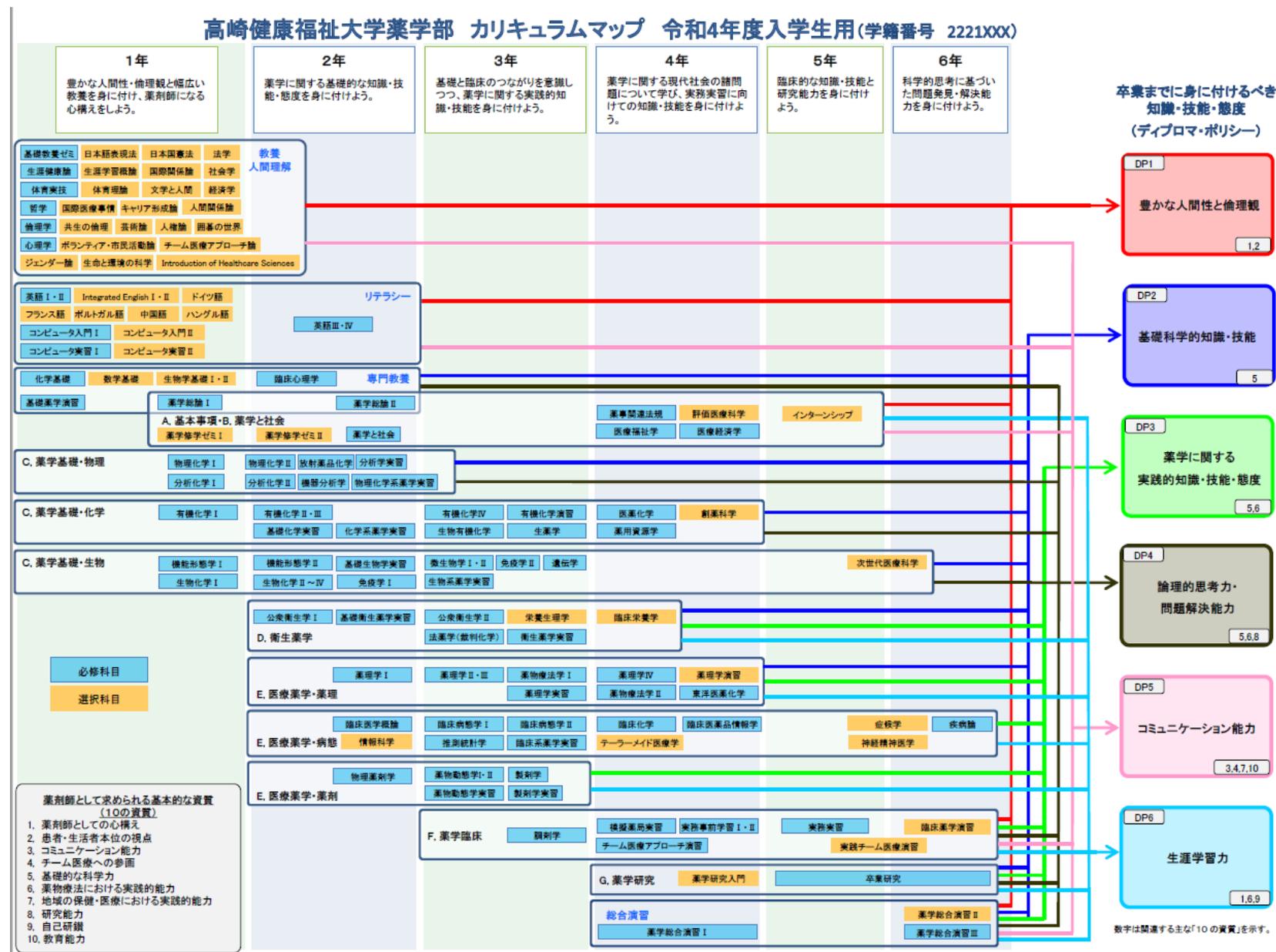
International Pharmaceutical Federation – FIP (2017). *Pharmacy at a glance-2015-2017*. The Hague, The Netherlands: International Pharmaceutical Federation.

6. What services are community pharmacies providing and remunerated for beyond dispensing?



International Pharmaceutical Federation – FIP (2017). *Pharmacy at a glance-2015-2017*. The Hague, The Netherlands: International Pharmaceutical Federation.

- 薬物治療のupdate
- 目の前の患者の
- 治療に貢献するための評価スキル



フォーミュラーとは？

- 一 疾患の診断、予防、治療や健康増進に対して、医師を始めとする薬剤師・他の医療従事者による臨床的な判断を表すために必要な、継続的にアップデートされる薬のリストと関連情報

Am J Health-Syst Pharm 2008;65:1272-83



医療機関における患者に対して最も有効・安全で経済的な
医薬品の使用における方針



中央社会保険医療協議会

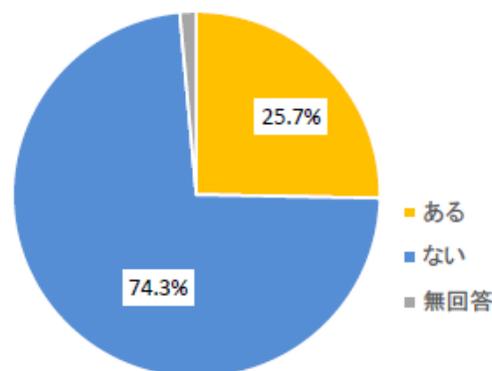
国内病院における実態調査に関する研究

○ 日本国内の主な病院※(831施設)を対象とし、フォーミュラーの作成状況等の調査を実施した。回答があった486施設(58.5%)のうち、フォーミュラーがあると回答した施設は123施設(25.7%)であった。

※ 特定機能病院86施設、地域医療支援病院624施設、日本病院薬剤師会の調査(令和元年)においてフォーミュラーを作成していると回答した121施設の合計831施設

※ フォーミュラー: 医療機関における標準的な薬剤選択の使用方針に基づく採用医薬品リストとその関連情報。医薬品の有効性や安全性、費用対効果などを踏まえて、院内の医師や薬剤師等で構成される委員会などで協議し、継続的にアップデートされる。

貴施設にフォーミュラーがありますか。(n=479)



出典) 研究代表者 今井 博久、令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業) 病院フォーミュラーの策定に係る標準的手法開発および地域医療への影響の調査研究

貴施設のフォーミュラーの位置付けについて、ご回答下さい。

	件数	%
遵守すべきルール	13	10.7%
処方する際の参考資料	102	84.3%
その他	6	5.0%
合計	121	100.0%

貴施設のフォーミュラーの運用について、ご回答下さい。

	件数	%
フォーミュラーの推奨薬以外は処方できない	10	8.2%
フォーミュラーの推奨薬以外は処方できる	112	91.8%
合計	122	100.0%

6

厚生労働省

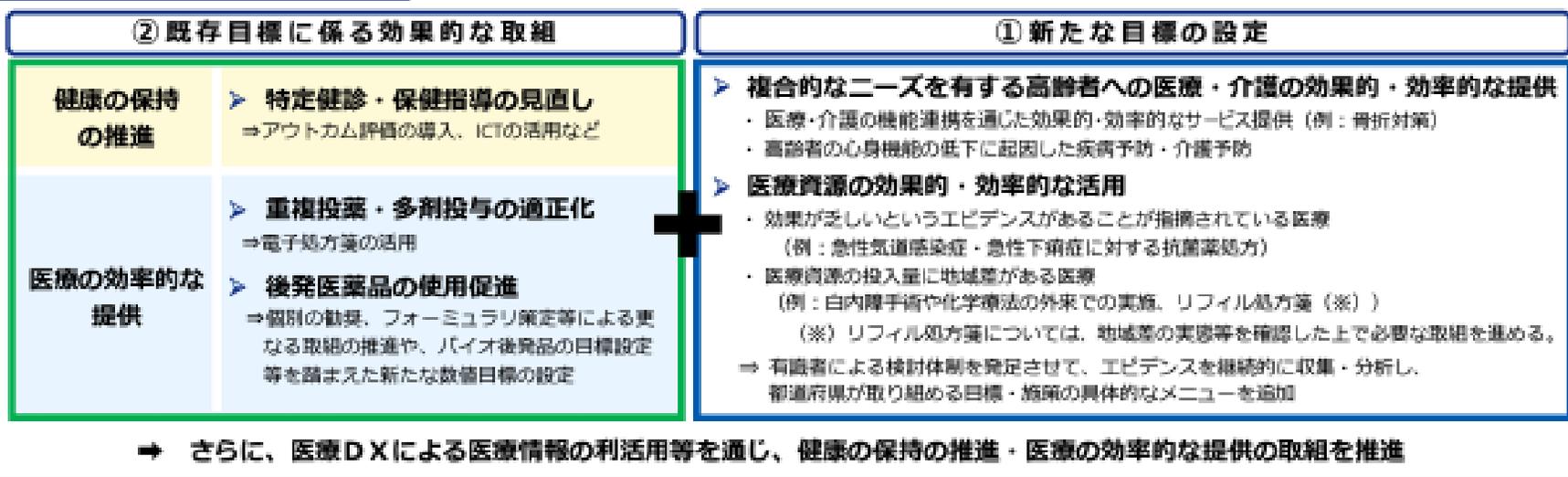
医療費適正化計画の見直し

2022年11月17日

第4期医療費適正化計画（2024～2029年度）に向けた見直し（案）

医療費の更なる適正化に向けて、①新たな目標として、複合的なニーズを有する高齢者への医療・介護の効果的・効率的な提供等を加えるとともに、②既存の目標についてもデジタル等を活用した効果的な取組を推進する。また、計画の実効性を高めるため、③都道府県が関係者と連携するための体制を構築する。

計画の目標・施策の見直し



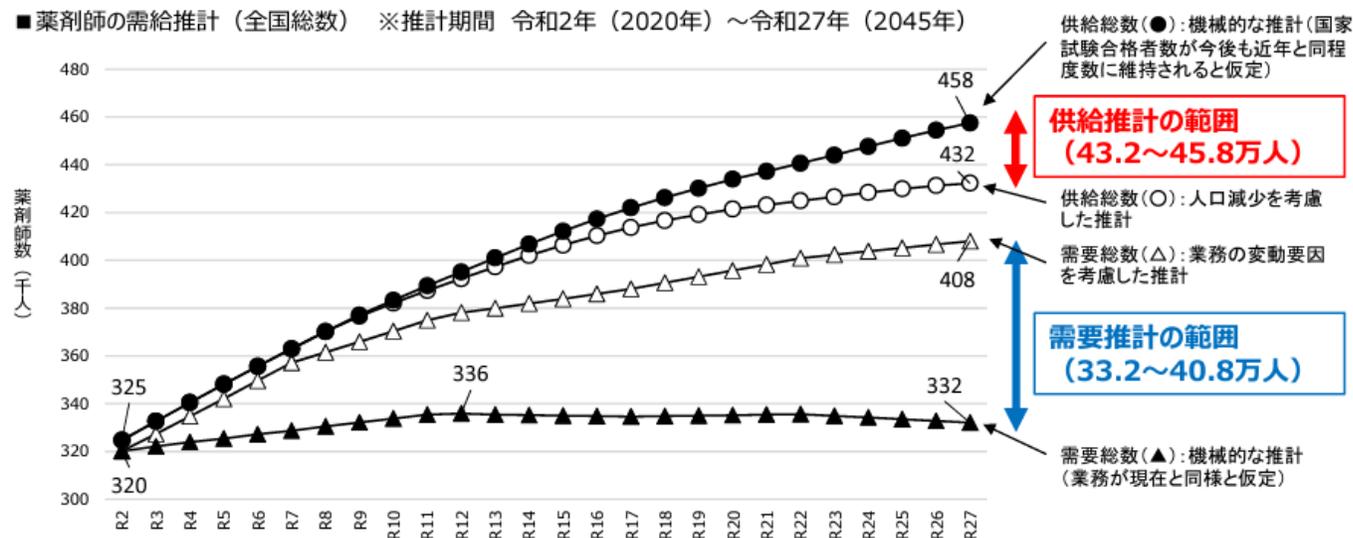
実効性向上のための体制構築

- ③ ▶ 保険者・医療関係者との方向性の共有・連携
- ・保険者協議会の必須化・医療関係者の参画促進、医療費見込みに基づく計画最終年度の国保・後期の保険料率の試算 等
- ▶ 都道府県の責務や取り得る措置の明確化
- ・医療費が医療費見込みを著しく上回る場合等の要因分析・要因解消に向けた対応の努力義務化 等

- フォーミュラーの導入が進む英米では、薬剤師が薬物療法に積極的に関わり、フォーミュラーの作成をはじめ、薬剤師としての専門性を生かした業務を行なっている。
- 日本においても、調剤の機械化を進め、対物業務（調剤など）から対人業務（服薬指導など）にシフトする流れが来ており、約30万人の薬剤師のリソースと専門性の活用がフォーミュラー導入の重要な鍵となる。

(参考) 薬剤師の需給推計

- 薬剤師の総数としては、概ね今後10年間は、需要と供給は同程度で推移するが、将来的には、需要が業務充実により増加すると仮定したとしても、供給が需要を上回り、薬剤師が過剰になる。薬剤師業務の充実と資質向上に向けた取組が行われない場合は需要が減少し、供給との差が一層広がることになると考えられる。
- 本需給推計は、変動要因の推移をもとに仮定条件において推計したものであり、現時点では地域偏在等により、特に病院を中心として薬剤師が充足しておらず、不足感が生じている。
- 今後も継続的に需給推計を行い、地域偏在等への課題への対応も含めた検討に活用すべき。



https://www.mext.go.jp/content/20210830-mxt_igaku-000017657_9.pdf

医薬品情報業務に利用できる情報源①(インターネット)

公的機関・団体	疾患、薬物治療	データベース	妊婦授乳婦関連	適応外・保険	中毒	医薬品一般	健康食品	リンク集	資料(HP名)
●									医薬品医療機器総合機構(PMDA)
●									厚生労働省
●									日本病院薬剤師会
●									日本薬剤師会
●									Food and Drug Administration (FDA)
●									European Medicines Agency (EMA)
	●								Minds ガイドラインライブラリ
	●								MSDマニュアル(メルクマニュアル)
	●								今日の診療プレミアムWEB
	●								UpToDate
		●							医中誌Web
		●							JDreamIII
		●							iyakuSearch
		●							CiNii
		●							PubMed
		●							The Cochrane Library
			●						国立成育医療研究センター
			●						LactMed
				●					国民健康保険中央会
				●					社会保険診療報酬支払基金
					●				中毒情報データベース
					●				TOXLINE
						●			Drugs.com
						●			RxList

医薬品情報業務に利用できる情報源②(書籍類)

調剤、製剤	妊婦授乳婦関連	副作用	相互作用	薬物治療	薬物動態	中毒	薬理	医薬品一般	公定書	書名
●										内服薬 経管投与ハンドブック-簡易懸濁法可能医薬品一覧-
●										錠剤・カプセル剤粉碎ハンドブック
●										注射薬調剤監査マニュアル
●										表解 注射薬の配合変化
●										軟膏・クリーム配合変化ハンドブック
●										病院薬局製剤事例集
●										錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報
	●									薬物治療コンサルテーション 妊娠と授乳
	●									実践 妊娠と薬
	●									Medications & Mother's Milk
	●									Drugs in Pregnancy and Lactation
	●									Pediatric & Neonatal Dosage Handbook
		●								Meyler's Side Effects of Drugs
			●							薬の相互作用としくみ
				●						Stockley's Drug Interactions
					●					サンフォード 感染症治療ガイド
					●					JAID/JSC感染症治療ガイド
					●					レジデントのための感染症診療マニュアル
					●					新臨床腫瘍学-がん薬物療法専門医のために-
					●					予防接種に関するQ&A集
						●				ウィンターの臨床薬物動態学の基礎
						●				透析患者への投薬ガイドブック
						●				腎機能別薬剤投与量POCKET BOOK
							●			急性中毒情報ファイル
							●			急性中毒ハンドファイル

<https://jshp.or.jp/cont/18/0510-2.html>

標準フォーミュラー 薬効群比較レビュー	新薬評価	適応症追加
抗ヒスタミン薬	リフヌア錠	レルミナ錠 (子宮内膜症)
PPI・P-CAB	カボメティクス錠	カボメティクス錠 (根治切除不能又は転移性の 腎細胞癌 (ニボルマブとの併用 療法))
速効型・超速効型インスリン	エンレスト錠	エンレスト錠 (高血圧症)
ARB/ACE阻害薬	レカルブリオ配合点滴静注用	
	ツイミーグ錠	

薬剤師の職能としての情報提供の重要性

**2024年度入学の薬学部モデル・コア・カリキュラム
「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる
医療人の養成」**

“医療における意思決定に必要な医薬品情報”